

平成30年度 福知山市施政方針

1【はじめに】

本日、ここに平成30年第1回福知山市議会を招集いたしましたところ、議員の皆様におかれましては御参集を頂き、ありがとうございます。

はじめに、本年1月に発生しました堀山送配水管漏水事故では、市民の皆様や企業の方々に多大なご迷惑をおかけいたしましたこと、この場をお借りして改めてお詫び申し上げます。今後、老朽化した管や施設の更新、基幹となる管の耐震化など、上下水道部において着実に施設整備に取り組み、市民の皆様の生活基盤をしっかりと守ってまいります。

それでは、来年度予算案並びに諸議案の審議をお願いするにあたり、平成30年度の福知山市政の施政方針を申し上げます。

2【平成29年度の市政を振り返って】

平成30年度は、4月に自治基本条例が施行される、大きな節目の年として始まります。条例前文にうたわれておりますように、市民が自ら考え行動し、まちづくりに参画することで地域のコミュニティを確立し、市民が主役の新たな福知山市を築いていくことが、未来を切り拓いていくための大本であると確信をいたしております。

一方で、国においては、景気拡大が高度経済成長期のいざなぎ景気を超え、戦後2位の長さに達しておりますが、GDP 国内総生産の6割を占める個人消費は未だ強い回復基調はみられず、デフレ脱却は実現しないまま、将来不安は払拭されず、相対的貧困率は若干の改善をしているとされるものの国際的水準からはまだまだ高い水準にあり、社会の分断が深刻さを増しています。

そうした中であって本年度の市政を振り返りますと、今年1月に開設しました福知山産業支援センター（ドッコイセ！BIZ）においては、2月20日時点で、相談予約件数190件、相談実施件数122件と、市民の方々に積極的にご活用をいただき、想定以上に順調なスタートを切ることができました。

また、昨年公表された国勢調査に係る従業地・通学地による人口・就業状態等の集計結果において、福知山市は京都府内で、昼間の人口が京都市、宇治市に次いで3番目に多い都市となりました。

働く場があること、学ぶ場があることの重要性を踏まえた中、長田野工業団地アネックス京都三和の立地については、一昨年12月の株式会社YMC、昨年3月の京奉株式会社、先月には株式会社パールトーンが進出を決定頂きました。そして、分譲区画についても、平成14年の分譲開始からの10区画と合わせ、一昨年12月以降、既立地企業の株式会社浅田可鍛鉄所が新たに購入された区画を含め6区画が分譲され、合わせて16区画となり、区画の半数を超えることができました。これらの企業立地により、地元経済の活性化や雇用の創出を期待しているところでもあります。

さらに、福知山公立大学の一般入試については、募集人員77人に対して約10倍

の702人が全国から志願いただき、昨年度に引き続き高倍率となっております。

これらに代表されるように結果が出てきているものが少なくなく、これをさらに成果へと結びつけていくことが肝要であると振り返っているところであります。

喫緊の課題である有害鳥獣対策に関わっては、その防除対策について国にも要望を進める中で、平成28年度補正予算で約1億円の予算措置が得られたところですが、引き続き要望を重ね、平成29年度補正予算でも約5000万円の予算措置が得られる見込みとなっております。

一般会計に計上される予算ではないものの地域の大変に大きな課題であり、今後も国等に必要な予算措置を求めていきたいと考えているところであります。

ところで、スポーツ・平和の祭典として韓国ピョンチャンで開催されている冬季オリンピック・パラリンピックでは、世界のトップアスリートの並々ならぬ努力、自己研鑽と強い精神力に深い感銘を受けたところです。

本市におきましても、2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに続く世界大会となる「関西ワールドマスターズゲームズのソフトテニス競技」の開催が、3年後の2021年5月に控えております。

他の市事業がそうであるように、大会を開催して終わり、ではありません。この世界大会開催を通して何を実現し、何をレガシー（良い遺産）として市民生活へ、そして次世代へと引き継いでいくのかを考え、実践していかねばならないと決意を新たにしたところであります。

3【新しい時代の福知山づくり～次世代につなぐ未来づくり予算】

さて、私は市長就任以来、10年後の福知山を考え、その先を構想する中で、基礎自治体としての機能の一層の充実と財政基盤の安定化を図りながら、元気の出るまちづくりに取り組むことを念頭に市政運営を進めてまいりました。

まずは、将来の推進方策が必ずしも明確ではなかった、住民自治・防災・医療・福祉・子育て・文化・スポーツ・産業などの分野において本年度、あるいは本年度と来年度にわたる検討会議等を立ち上げ、具体策を練り込むことに注力してまいりました。同時に、行政としての考え方のみを先走らせるのではなく、市民との対話をベースとし、外部の先進的、有為な知見も取り入れながら検討を進め、実効性あるものとするよう努めてまいったところであります。

一方で、施策推進の基盤となる財政の状況は、まったく楽観できるものではありません。少子高齢化の進行や2025年にピークを迎える超高齢社会への対応などを鑑みると、地方交付税や市税などの一般財源の先行きは不透明である一方で、扶助費などの社会保障経費の増加が強く懸念されます。加えて、広い市域に多数抱えた公共施設の老朽化が進み、その維持管理補修や更新に係る負担も増大しており、今後、財政運営を取り巻く環境はますます厳しいものとなることが想定されます。

それは、財政の弾力性を示す経常収支比率が、平成22年度決算では83.5%であったものが、平成28年度決算では6年連続悪化して96.8%、一本算定では101%となっていることから見て取れます。これは、過去の財政運営の当たり前を

そのままにしているだけでは立ち行かなくなることを示すとともに、時代に即した地域活性化施策の展開が困難となり、それに伴う人口減少による歳入減を招き、さらに財政が悪化するという負のスパイラルに陥りかねないことを示していると言えるでしょう。

平成29年度の経常収支比率の上昇も懸念される所ですが、そこで、こうした事態を回避するため、昨年11月に策定した「福知山市財政構造健全化指針」に基づき、歳入歳出それぞれの取組みを通じて財政構造の健全化を強力に推進することとしたところであります。

「礼記・王制」に曰く「入るを量りて、以て出ざるを為す」とありますが、来年度当初予算の編成にあたっては歳入を厳しく見定めつつ、歳出を本市を取り巻く状況や社会状況の変化、市民ニーズなどを踏まえた上で、喫緊の課題に対応すべきものに絞り込むこととしました。と言っても、ただ単純に削るのではなく、慣例や前例踏襲による事業を質・量の両面から見直すとともに、経常経費等の抑制を行い、その成果から得られる財源を真に必要となる事業に振り向けることなどにより、メリハリのある施策・事業を組み立てることに力を傾注いたしました。

それでは、新時代の福知山づくりに向けて編成した「次世代につなぐ未来づくり予算」につきまして、その主な内容を8つの施策ごとに述べさせていただきます。

(1) 安心・安全の生活・防災基盤づくり

はじめに、安心・安全の生活・防災基盤づくりであります。

平成29年度においては台風18号、21号などにより床上浸水などの住家被害をはじめ道路河川などの公共施設や農作物等に甚大な被害をもたらしました。国内では活発な梅雨前線による九州北部豪雨災害や火山活動の活発化をはじめ、地震、大雪などの自然災害により尊い生命と財産が失われています。さらには北朝鮮による弾道ミサイル発射などの外的要因への対応も含め、防災・減災力、危機管理力の強化に取り組む必要性を強く認識しております。

治水対策につきましては、国の「由良川の緊急的な治水対策」を受けて「由良川水系河川整備計画」の1日も早い完了を促進するとともに、「国・府・市による由良川流域（福知山市域）における総合的な治水対策」に位置付けられた市街地の内水対策にもソフト・ハード一体として推進してまいります。

さらに、弘法川・法川流域の農業用ため池6池に洪水調整機能を付与した改修整備を進めるとともに、弘法川流域等の治水対策として森林整備を進めてまいります。

また、地震などによるため池の決壊などを予測したハザードマップを作成し、地域の皆様の避難等の意識を高めるとともに治水事業についても京都府と連携しながら進めてまいります。

下水道事業におきましては、土師排水区段畑雨水ポンプ場建設事業、法川排水区西池貯留施設築造などの浸水対策を推進するとともに、適切な施設管理と計画的な施設の改築更新に努めてまいります。

「市民とともにつくる災害に強いまちづくり」を推進するため、自主防災組織結成の推進及び活動の充実を図るとともに、地域への出前講座の開催、地域防災マップの

作成支援など、情報収集や情報伝達機能、自助・共助機能の強化といった災害対応の体制整備の取組みをさらに進めてまいります。

災害時に避難支援が必要な方に対しては、まずはその名簿整備が必要ですが、「災害時要配慮者名簿」の策定が十分に進んでいないことから民生児童委員の協力を得ながら名簿登録を推進し、災害時の避難支援体制の構築に取り組んでまいります。また、災害発生時に要援護者を受け入れる福祉避難所として市内福祉施設の協力を引き続き得るとともに、広域避難所に福祉的対応が可能なよう、必要な資機材を充実し一時的な受け入れ環境を整えます。

消防団車両の更新については、計画的更新が十分に進まず、結果として老朽化が深刻化しています。地域防災力の中核として位置付けられる消防団につきましては、その活動拠点となる車庫・詰所の整備や災害現場活動における機動力の向上のための車両の更新を計画的に順次進めてまいります。

加えて、救助出動や救急出動など複雑多様化する各種災害事象に安全かつ迅速に対応するため老朽化した救助工作車と高規格救急車を更新整備していきます。

さらに、防災行政無線について、本市は平成18年の1市3町の合併により異なる防災行政無線システムを統合し運用していますが、迅速な情報提供のための統一化、電波法令改正への適合、設備の老朽化が課題となっており、「防災情報伝達に係る基本構想検討会」における検討を踏まえ、本市に最適となる設備の基本実施設計を行います。

また、普段の日常生活においても、安心・安全そして住みやすさを実感できるまちづくりを目指し、福知山警察署と締結した「福知山市安心・安全まちづくり協定」に基づき、市内の公共空間で、警察署が防犯上有効かつ必要であると分析し絞り込んだ箇所に防犯カメラを設置することといたしました。

(2) 子育て・教育の充実した未来に夢を育むまちづくり

第2に、子育て・教育の充実した未来に夢を育むまちづくりであります。

子育ての悩みは、一般的なものから虐待に至ってしまうものまで、多種多様で複雑なものになっています。子どもの貧困についても、その対策についてプロジェクト事業を立ち上げ、子ども子育て会議の中で「子どもの貧困対策検討部会」を設置し検討を進めてまいりましたが、子どもを権利主体として捉えると、家庭の経済状況や養育環境、発育・発達、社会的孤立など、様々な課題が輻輳している状況にあります。

そこで、全ての子どもの将来が家庭の経済的・社会的状況に左右されることなく、自ら将来を選択し自立していけるよう、妊娠・出産・就学前・就学後においても切れ目なく包括的に支援するため「子育て世代包括支援センター」を設置するとともに、子どもの多様な相談の受け皿となる「子育て総合相談窓口」を整備し、手続きのワンストップ化を図りつつ、個別課題に応じた支援へとつないでいきます。

同時に、子どもや保護者らを伴走型でサポートしていくため、多様な分野の専門職からなる「子どもすこやかサポートチーム」を配置して家庭訪問等のアウトリーチ型支援を強化するとともに、学校や児童館など関係機関との連携を強化し、地域で子ど

もの豊かな育ち・育みを支える活動を支援してまいります。

学校においては、家庭の社会的・経済的背景などにより課題を抱える児童生徒にいち早く気づき、必要な指導、支援を行き届かせるため「学力向上定着事業」に取り組んでまいります。

また、家庭での学習が困難であったり学習習慣が十分に身につかなかったりしている中学生への学習支援として、地域の皆様の協力を得ながら実施している「地域未来塾」について、平成30年度から全中学校に拡充して開校することとしております。

こうした子どもの健やかな育ち・育みのサポートを包括的・総合的に推進していくため、組織機構の改編・整備を予定しております。

教育については、「自分のために人のために社会のために『共に幸せを生きる』教育のまち福知山」を目標に、学校教育と社会教育が連携して、学んだことを自分の幸せや夢の実現のために活かすとともに、他者貢献や社会貢献もできる高い志を持った人材の育成に努めてまいります。

そして、現在、IoT、ビッグデータ、AIなどをコアとする技術革新が進み第4次産業革命と例えられる時代を迎えた中、子どもたちが未来の社会に取り残されることがないように、平成30年度から、府内自治体では初となる取組として、新学習指導要領の趣旨を踏まえた主体的・対話的で深い学びの創造のため、ロボット操作などの実体験を通して思考力を伸ばす「プログラミング教育開発推進事業」を始めます。併せて、佐藤太清記念美術館や福知山城などの地域資源を活用した校外学習の充実に努めてまいります。

大きな教育課題である不登校総合対策については、就学前から高校生までを対象として社会適応の力を育成するため「心の居場所づくり推進事業」を進めてまいります。また、「いじめ根絶対策事業」を引き続き実施し、社会総がかりで未来を担う子どもたちの安全を守り、育てる風土づくりを進め、学校・家庭・地域の連携強化を図ってまいります。

また、来年度は上六人部小学校と中六人部小学校が下六人部小学校へ統合し、今後学級数の増加が見込まれるため、下六人部小学校の教室増築工事に伴う設計業務や、平成31年4月開校に向けた三和学園の校舎増築工事のほか、衛生面での課題が懸念される大正小学校の配膳室の整備を行ってまいります。さらに大江地域の学校統合に向けての調整も進めてまいります。加えて、教室棟便所改修や空調設備の設置など教育環境の改善にも取り組んでまいります。

放課後児童クラブにつきましては、今後事業を安定して継続していくために使用料の改定と合わせて減免制度の拡充を予定しております。同時に、施設の充実や指導員の資質向上を進めるなど利用児童の安心・安全な居場所を確保するための環境整備を推進してまいります。

(3) 医療・介護・福祉の充実したまちづくり

第3に、医療・介護・福祉の充実したまちづくりであります。

団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題など、超高齢社会を迎えた中で、今

後も住み慣れた地域で安心して暮らしていただけるよう医療・介護・福祉の一体的な取組みが必要となります。

まずは、よりきめ細かいサービスの提供とともに、地域づくりの視点を踏まえながら地域福祉の充実を図るため、地域包括支援センターを現状の6圏域から日常生活圏とされる9圏域、中学校区への再配置に向けて準備を進めてまいります。

また、「ふくちやま医療・介護・福祉総合ビジョン検討委員会」や「介護者支援のあり方検討会議」の検討状況を踏まえて、医療介護の多職種連携を促進するための取組をはじめ介護職の医療的ケアへの対応など、地域包括ケアシステムの構築・深化を図るとともに、介護予防の推進、介護人材の確保に努め、認知症初期集中支援チームの設置など認知症対策にも取り組んでまいります。

また、介護者の負担軽減については、在宅介護者を対象としたケア講習会の開催やアドバイザーの派遣などによる介護者支援を進めてまいります。

市民病院につきましては、地域がん診療連携拠点病院に指定をされていますが、患者負担の少ないがん放射線治療に関し、最新鋭のCT付リニアック治療機器に更新整備し、平成30年度中に新しいリニアックでの治療を開始します。

また、地域救命救急センターを有する地域の中核病院として医療ニーズに応えるため、引き続き、医療スタッフの確保と医療機能の充実に努めてまいります。さらに、地域医療を担う公立病院として大江分院でも、地域包括ケアシステムの構築を踏まえた訪問診療や訪問看護などの在宅医療を推進してまいります。

障害者福祉につきましては、本年4月に施行される「福知山市手話言語及び障害のある人の多様なコミュニケーション促進条例」の基本理念に則り、手話言語の普及に努めるとともに、障害の特性に応じた多様なコミュニケーション手段の利用を促進することにより障害や障害のある人への理解を深めてまいります。

加えて、様々な障害の特性などへの理解を進めるとともに、必要な手助け・配慮を実践する「あいサポート運動」に取り組み、共生社会の実現を目指します。

また、事業主として市役所が率先して障害のある人を計画的に採用し、障害者雇用率の府内自治体ナンバーワンを目指してまいります。

(4) 「人づくり」「仕事づくり」による活力あるまちづくり

第4に、人づくり仕事づくりによる活力あるまちづくりであります。

まず、冒頭にも触れました近畿で2番目となるF B i zモデルである福知山産業支援センターにつきましては、今後も、売り上げUP、商品開発、販路拡大、事業継承、創業等様々なニーズに対応できるよう各支援機関と連携して、継続的な支援を行ってまいります。

また、農業におきましては、国全体では、平成22年には、261万人だった農業就業人口が平成29年には182万人と激減し、その平均年齢が約67歳となる中、耕作放棄地の面積は、平成27年には42万3000haとなっております。国は、農業競争力強化プログラムをベースに農業競争力強化支援法など農業改革関連法を制定し、農業の構造改革を進めようとしておりますが、本市としては、農業・農村の持つ

国土保全や水源の涵養などの多面的機能を維持するための支払交付金制度や生産条件が不利な中山間地に対する直接支払制度などについて、国や京都府とともにその制度を支えていくことは当然必要であると考えております。

一方で、先に述べた農業を取り巻く状況、本市の総農家数のうち、自給的農家が47%、販売農家で第二種兼業農家が32%を占めていることを踏まえる、基礎自治体としての取り組みは、自らが、「稼ぐ」ことに取り組み将来展望を切り開こうとする意欲ある農業者を後押しし、支援していくことだと考えております。福知山ならではの農産物等の新たな魅力を見だし、商品開発と市場開拓、販路のマッチングを支援してまいります。また、グローバルGAPが世界標準となろうとする中、販路の多様化などを図るためにも、国際水準GAPの認証を取得する意欲ある農業者を国や京都府制度も活用しながら支援してまいります。

また、農林水産省の資料では、平成27年の福知山市の農業産出額（推計）の約63%が畜産で、畜産に分類される鶏卵が約56%を占めており、米、野菜などの耕種は約37%となっております。ジビエも含め、その畜産業の振興に向けて調査チームを設置するとともに、海外展開も含め挑戦する意欲のある生産者の事業展開を支援します。

そして、丹波漆は、貴重な地域資源です。「丹波漆活用調査プロジェクトチーム」を設置し検討を進めてまいりましたが、丹波漆の生産量拡大に取り組むとともに、その製品づくりについても福知山の一つの顔となれるような商品開発に向けて取組を進めてまいります。

さらに、誰もが互いに価値観を尊重し合い平等に参画できる「共に幸せを生きる」共生社会の実現に向けて、女性団体の活動支援や働く女性の支援、新たに起業を目指す女性等に対し支援を進めてまいります。

再生可能エネルギーに関わっては、エネルギー自給率が6%である我が国にとって枯渇しないエネルギーであること、想定できないような降雨などが発生する気候変動については、18世紀の産業革命以後の人間がもたらした温暖化が影響とされることなどを踏まえ、一昨年にはパリ条約が発効し、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）では第6次評価報告書の策定に向けそのアウトライン（章立て）が決定されたところです。本市では、「再生可能エネルギー推進検討委員会」でその推進の検討を行ってまいりましたが、採算に見合った取組が進まなければ、電源として実用的な発電量も生み出すことはできません。民間事業者が主体的に参入でき地域にとってもメリットのある事業実施に向け調査研究等を進めてまいります。

移住・定住の促進については、中心市街地、農山村地域以外の空き家バンク登録対象外であった地域も登録対象地域とするとともに、全ての地域の空き家バンク登録物件の紹介窓口を移住・定住担当部署に一本化してまいります。また、体験申込者の希望する日時や訪問先、物件を案内するセミオーダー型体験ツアーを実施してまいります。さらに、移住者の移住目的のひとつとして、就業や起業が多くあることから、北京都ジョブパークなどの就業支援機関や福知山産業支援センターとの連携した伴走型の支援など、移住に向けた環境整備を進めてまいります。

また、先に述べた丹波漆、そして丹後和紙、藍染めは、本市の伝統文化ですが、その継承をしっかりと進めていけるよう、後継者発掘に向けても、調査・研究、研修事業等に支援し、取組を進めてまいります。

(5) 「人づくり」「仕事づくり」と連携した観光戦略の展開によるまちづくり

第5に、「人づくり」「仕事づくり」と連携した観光戦略の展開によるまちづくりであります。

昨年6月に開設いたしました「観光地域づくりセンター」を中心として、「北近畿の玄関口としての特性を活かし、市民主体で持続可能な観光コンテンツをつくる」を戦略テーマに、本年度着手した三和町などにおける事業を形にしていくとともに、本市の農産物や人、文化、自然などの地域資源と経営感覚のある事業者を繋ぎながら、新たな地域での事業着手を行います。

観光戦略の展開にも対外的なプロモーションが重要であり、福知山市の多様な魅力を戦略的に情報発信し、認知度やイメージの向上により移住・定住・交流・関係人口の拡大にもつながることを目指していくPR（パブリックリレーション）を昨年からスタートしております。ブランドメッセージ「いがいと！福知山」とロゴマークを決定し、さらに、写真共有型SNS「インスタグラム」やフェイスブックなど様々なツールを活用し、市民を巻き込みながらその普及を図るとともに、市内で行われるイベント等についてターゲットを明確にしながらかマスメディアを活用した情報発信等を積極的に行ってまいります。

また、福知山城をさらに全国発信するため、「くの一武道大会丹波福知山の段」の開催など「お城で忍者事業」として戦略的に開催しPRを行ってまいりますとともに、昨今、藤井聡太六段や羽生善治永世七冠の誕生、国民栄誉賞の受賞など人気急上昇中の将棋タイトル戦の福知山城での開催を誘致する取組みも展開してまいります。

さらに、「肉のまち」事業については、畜産業等調査支援事業とも連携しながら、商工団体、食肉関係の事業者、観光協会等で「(仮称)福知山肉まち協議会」を設立し、情報発信やイベントの開催に取り組んでまいります。そして、福知山は「スイーツのまち」としてその魅力発信を進めてきましたが、特用林産物である栗は、和菓子・洋菓子いずれでも使用される素材です。本市は、栗のルーツともされ京のブランド産品にも認定されている丹波くりの産地ではありますが、その収穫量は減少を続けています。そのような中、丹波くり生産者と消費者であるスイーツ店などが一緒になり、丹波くりの林である「スイーツの森」をつくることを象徴的取組としながら、生産者とスイーツ店をつなぎ、丹波くりスイーツコンテストも開催する中でブランディングを進め、丹波くりの生産拡大とスイーツ店のPR、ブランド強化を行います。また、スイーツフェスティバルとの連携も進めてまいります。

そして、ワールドマスターズゲームズ2021の準備や本市で開催されるソフトテニス競技において必要な施設改修を進め、受入体制整備を進めてまいります。

(6) 知の拠点を活かしたまちづくり

第6に、知の拠点を活かしたまちづくりであります。

「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」として開学した福知山公立大学は、地域を担う人材の育成、地域産業振興と雇用創出、生涯学習の充実を図り、北近畿地域の発展に寄与できる大学を目指して、地域連携・地域協働活動の充実により地域に開かれた大学、地域住民に見える大学づくりに取り組んでおります。

大学内に設置する「北近畿地域連携センター」や中心市街地に新設する「まちかどキャンパス」において市民講座等をはじめとする様々な地域連携事業を展開してまいります。

また、「知の拠点」整備構想検討委員会から提出されたまとめを受けて、福知山公立大学、京都工芸繊維大学から示された意見も踏まえ策定した「知の拠点整備構想」に基づき、文系の福知山公立大学と今年秋に開講する理系の京都工芸繊維大学福知山キャンパスがそれぞれの特色と強みを活かした文理連携を深めるとともに、両大学を核とした産学官連携を推進してまいります。

さらに、平成32年度開設を目途とする新学部の設置に向けて必要となる教育研究体制や施設改修整備を支援してまいります。

(7) 「市民と語り、創る」対話の市政による市民満足度の高いまちづくり

第7に、「市民と語り、創る」対話の市政による市民満足度の高いまちづくりであります。

本年4月に施行される「自治基本条例」に基づき、市民の皆様の主体的な参画のもと、市民の皆様と協働して満足度の高い明日の福知山を構築していくことが必要と考えております。

みんなで解決支援事業として、自治会等が市民ボランティアを巻き込みながら地域課題の解決に向けて取り組む事業を公募し、本市が市民ボランティアとのマッチングなどの支援を行うことによって市民協働のまちづくりを推進してまいります。

また、次世代の担い手である高校生を中心に、福知山市の将来のあり方やまちづくりの未来について意見を交わす「次世代交流ワークショップ」を引き続き開催し、若者のまちづくり意識の向上や郷土愛の醸成を図り、未来の福知山を切り拓く人材を育成してまいります。

さらに、自治基本条例が施行されることを受けて、「地域づくり組織支援事業」として、住民自治に対する市民意識の醸成を図るため、地域づくり組織や地域課題解決の参考となる講演会等を開催するとともに、三和・夜久野・大江の地域協議会の活動に対して引き続き支援を行ってまいります。

併せて、本年度「住民自治検討事業」として進めてきた、将来持続可能な住民自治を推進するための組織のあり方や市の支援策等の検討については、「みんなのまちづくり推進事業」に統合し、本年度の議論を踏まえ、さらにその議論を深め検討を進めてまいります。

(8) 新時代を切り拓く行政改革の実施

第8に、新時代を切り拓く行政改革の実施であります。

市民の皆様の生活に活力と安定を保ちながら将来に向けて健全な財政基盤を確立するために、現在進めている事業棚卸しなどによる既存事業の見直し、効果的な事業の立案、公共施設マネジメントなどをより一層着実に進めてまいります。

効率・効果的な行政経営マネジメントシステムとするために取り組んでいる事業棚卸しも来年度で3回目を迎えます。引き続き棚卸しを実施し、施策検討を行う中で、より時代に即した事業を展開してまいります。

また、公共施設の更新問題や財政支出の最適化を図るため、公共施設マネジメント実施計画に基づく取組や用途廃止財産等の有効活用について、サウンディング型市場調査を積極的に実施し、民間活力を導入しながら売却や貸付等の有効活用を図ってまいります。

さらに、公共施設の適正管理運営については、指定管理者制度導入施設において第三者評価委員会により施設のあり方も含めて検討を行い、適正な管理運営を推進してまいります。

このほか、情報通信環境整備に係わっては、複雑化・高度化はとどまるところなく進化をしていますが、今後、情報システムについて、大規模なシステム更新時期を迎える中で、費用対効果の観点も含め効率・効果化を図りつつ、本市全体で一体的となる最適化を進めていくことが必要です。また、セキュリティ対策も含め、的確にシステムマネジメントを行える体制の整備も進めていかななくてはならず、働き方改革の観点からも業務の効率化などの効果をもたらすシステム拡充は急務であり、これらを総合的に捉えて取り組んでまいります。

また、施設の集約化・複合化のモデル事業として、旧三岳小学校で、三岳地域の集会施設、老人施設、消防団詰所等の機能を集約化・複合化した「小さな拠点」づくりに向けて校舎改修に係る実施設計を行い、市民協働による効率的・持続可能な地域活動の実現を目指すとともに、公共施設マネジメント実施計画の推進を図ります。

財源確保対策としては、市有財産の積極的な活用とアセットによる創出土地の売却をはじめ、「ふるさと納税」を一層推進するため、納税サイトを拡充するとともに、引き続き企業版ふるさと納税への取組みも進め地域振興に繋げてまいります。

4【次世代につなぐ施策の展開】

その他、「未来創造 福知山」や「福知山市まち・ひと・しごと・あんしん創生総合戦略」などで中長期的に位置付けた各種施策についても、不断に見直しながら、適切かつ積極的に推進してまいります。

広小路商店街の景観に配慮し、通行車両・歩行者の安心・安全を確保した道路改良、街並みの形成は、平成30年度で完了を予定しております。

また、公共交通につきましては、少子高齢化や過疎化により交通インフラが衰退する中でも、効率的効果的な交通網を維持すべく、「地域公共交通網形成計画」に基づき、地域の事情に応じた公共交通の再編及び新たな交通体系の導入等に順次取組みを

進めていくとともに、公共交通空白地有償運送事業の導入を進めるため、三和地域において引き続き地域コミュニティ交通導入モデル事業を実施してまいります。さらに、交通不便地域等における乗合タクシー導入の可能性について調査を行ってまいります。

「e—ふくちやま」事業については、将来に亘って持続可能で安定したサービスを提供するとともに、更なる利便性の向上や高度情報化社会に適応するために、民営化に向けた取り組みを進め、平成31年3月末の事業終了に向けて、円滑な移行に努めてまいります。

5【平成30年度予算編成】

以上の施策に基づいた平成30年度予算につきましては、一般会計で総額404億4000万円の規模となっております。

歳入面では、市税収入は1億6400万円の大幅な減を見込んでおりますが、普通交付税については、合併による特例加算の縮減が進む一方で、制度上の補完機能や交付税算入率の高い市債償還が増えたことなどにより結果として1億3300万円増となったほか、地方消費税交付金3000万円の増などで減収分をカバーしています。

地方交付税については、平成30年度の歳入でも交付税算入率の高い市債償還があれば交付税が増額となる制度となっているように、扶助費や公債費、大学運営費交付金など、交付税算入対象の歳出が増加することにより交付税が増額となるのであって、単に交付税の増額が歳入の増を意味するわけではありません。

本市財政における歳入見通しも依然として大変に厳しい状況にあります。

歳出は、喫緊の課題である総合的な治水対策関連経費や学校等の統合関連経費、消防車両の更新経費、そして知の拠点などの投資的経費の増加、さらに扶助費などの社会保障関係経費の増加となる経費について、スクラップアンドビルドの観点から事業棚卸しによる既存事業の見直しなどを進めるとともに、経常経費等の抑制を行い予算編成を行ったところです。

このことにより、平成30年度一般会計当初予算の普通建設事業費が本年度に比して15.2億円増となっているのに対し、総額では9.6億円の増にとどめております。

その上で、結果として、一般会計は平成29年度に比べて9億6000万円、2.4%の増、特別会計の予算は、総額203億1907万2000円、公営企業会計の予算は、総額281億2210万円で、全会計を合わせますと888億8117万2000円となっております。

6【むすびに】

結びに、私たちは時代の大きな変わり目に直面しています。社会の多様化・高度化・複雑化と相まって「公共」の定義は大きく変容し、さまざまな主体が公共の担い手として活躍の幅を広げる中で行政のあり方もまた大きく変化しています。

私たちの大切な「ふるさと福知山」は豊かな自然、伝統ある歴史文化、整備された

都市基盤のほか、意外性あふれる様々な資源があります。これらの地域資源を未来に向かって活かすためには、変化を恐れず、むしろ先取りして飛躍する気概が欠かせず、それなくして北近畿のフロントランナーたり得ないと考えます。

私は「土地を知り、人を知り、人の心を知る」を信条としており、日頃から市民の皆様方から多種多様な御意見を頂戴しております。その熱意をさらに一歩進めていただいて、ともに考え、ともに汗を流し、ともに喜びを分かち合う、明日の福知山を築いていきたいと、いかねばとも思います。そのために、全職員が一丸となり施策に取り組むとともに、私も自らその先頭に立ち、福知山市の未来のために全力を傾注する決意であります。

本定例会に提案をさせて頂きました予算は、新しい時代の福知山へ未来に向かって挑戦するために不可欠となる予算として編成したものであります。

議員の皆様、並びに市民の皆様方の一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。